

パプアニューギニア国

生物多様性保全のためのパプアニューギニア保護区政策強化プロジェクト

2017年4月15日

自然環境部 長濱 幸生

2016年7月からパプアニューギニア国の生物多様性保全プロジェクトに自然環境管理専門家として参加し、海洋保護区を設立するための活動をしています。今日は、プロジェクトの背景とこれまでの主な活動について、ご紹介したいと思います。

パプアニューギニア国は、カンガルーなどの有袋類が繁栄しており、独特で豊かな生物多様性をもっています。そしてパプアニューギニアの人々の多くは、生活や生計を自然生態系に依存しています。しかしながら政府機関や地域住民の連携が弱いことから、貴重な自然生態系の保全活動が機能していません。このような状況下で2013年にパプアニューギニア政府は我が国に対して、生物多様性保全のための技術協力を要請しました。その要請を受けて国際協力機構は、2015年6月からパプアニューギニア国保護区政策に則った保護区管理能力強化プロジェクトを開始しました。プロジェクト期間は2021年5月までの5年間です。

私の担当業務では、まず、海洋保護区設立のためのロードマップ作成から開始しました。ロードマップ作成にあたり、パプアニューギニア国の海洋保護に関する法律を調べ、現在パプアニューギニア国の海洋環境が置かれている問題点を整理し、プロジェクトが対象とする海域として首都ポートモレスビーから車で30分程度の距離にあるブートレス湾を選び出しました。

次にブートレス湾の関係者に呼びかけて、環境保全に関する情報交換や意見交換をするネットワークを形成しました。これまでに15のグループ（政府機関、県庁、市役所、地方コミュニティグループ、NGO、民間企業）が参加しており、メンバーは増え続けています。

ネットワークの形成と同時進行で、自然生態系を保全するための鍵となる場所を特定するために、ブートレス湾でマングローブ林、海草、サンゴの生育状況を調査しました。これまでに、海洋保護区を設立すべき4つのターゲットサイトを選びました。現在、それぞれのターゲットサイトが属する県庁や市役所から、海洋保護区設立に関する法令や土地所有権について情報を集めています。

ブートレス湾にはいくつか海上集落があり、そこに住む人々の多くは漁業で生計を立てています。4つのターゲットサイトのひとつは、海上集落の人々が管理する漁場でもありません。つまりプロジェクト活動を進めるうえで海上集落の人々は、重要な関係者と言えます。ところで、それらの海上集落にはゴミ収集運搬車が巡回しないために、生活廃棄物が投棄されており、自然生態系や住民の健康にとって問題となっています。今月の派遣では廃棄物管理NGOや市役所と協力して、沿岸クリーンアップイベントを企画しました。そして、ネッ

トワークメンバーに参加を呼び掛けて、ゴミ収集イベントを開催しました。イベントには104名の参加者があり、50Lのゴミ袋200袋分のゴミを収集しました。海上集落の人々にとって生活ゴミは、海に投げ捨てるものと考えられていますので、今後環境教育を通じて住民の意識を変えていきたいと考えています。

次回の派遣では、海洋保護区設立のための情報収集、プロポーザル作成を進めていきます。一日も早く、ブートレス湾に海洋保護区が設立されて、豊かな自然生態系が保全されることを願ってやみません。

#### 活動写真



Photo 1: ブートレス湾の豊かなサンゴ



Photo 2: 伐採が進むマングローブ林.



Photo 3: パプアニューギニア国関係省庁との会議



Photo 4: 海洋保護区設立ターゲットサイトのひとつ、海岸にマングローブ林が広がっている



Photo 5: ブートレス湾の海上集落を訪問



Photo 6: 地方コミュニティーヘインタビュー



Photo 7: 沿岸クリーンアップイベント (前)



Photo 8: 沿岸クリーンアップ (後)



Photo 9: 沿岸クリーンアップイベントのグループ写真



Photo 10: プロジェクト看板の設置セレモニー